公立置賜南陽病院だより　第１３２号

お元気ですか

発行日
令和５年３月１６日
発行者：公立置賜南陽病院
広報委員会



公立置賜南陽病院と電子カルテ

医師　新澤　陽英

電子カルテというとパソコンに向かう医師の姿を思い浮かべるかと思います。時に医師が電子カルテに向き合ってばかりで、患者さんを診ないという不満を耳にします。しかし、電子カルテは診療上欠かせませんし、有用です。今回は電子カルテの有用な点を紹介します。

南陽病院は公立置賜総合病院（総合病院）、長井病院、川西診療所、飯豊診療所と中津川診療所と多くの医療機関と同じ電子カルテで繋がり、米沢市を除く置賜住民のおそらく６割以上の医療情報が共有され、その規模は比率的に日本一相当ではないかと思われます。

この医療情報共有の利点は、１.安全で安心な医療の提供、２.効率的医療の提供、３.遠隔医療の提供、４.医療情報の蓄積で未来医療への貢献などです。

まず、１.安全で安心な医療の提供です。南陽病院以外に総合病院など置賜広域病院企業団（企業団）の医療機関を受診し薬をもらう場合、電子カルテで南陽病院と同じ薬の処方を避けることができます。また、ＣＴでの造影剤アレルギーが総合病院で起こった場合、次に他病院での造影剤の使用は避けられます。これは、処方情報、薬剤アレルギー情報が共有され安全で安心な医療の提供がなされるという大きな利点です。

次に２.効率的医療の提供です。南陽病院から総合病院へ紹介となったケースです。南陽病院でのレントゲン検査や血液検査から肺炎が疑われ、総合病院へ紹介となった場合、総合病院では電子カルテで南陽病院の検査結果などを見て診断が速やかになされ、直ぐに治療に入れます。特に、急を要する病気の場合には電子カルテでの情報共有は重要です。反対に、脳卒中の治療後に総合病院から南陽病院にリハビリ目的で紹介入院された場合、電子カルテでの診療情報をもとに、切れ目なく、リハビリに入れます。総合病院と南陽病院間の双方向性での効率的な医療提供がなされています。

３.の遠隔医療の提供です。最近経験した事例です。南陽病院に肺炎で入院中の患者さんが難治性の皮膚疾患を発症しました。その写真を電子カルテで総合病院の皮膚科の医師に診てもらい、回復に向かっております。他の診療科でも、専門医のいる総合病院との遠隔医療を模索し、試行しています。電子カルテでの遠隔医療は医師不足を補う安心の医療に繋がります。

最後に４.医療情報の蓄積で未来医療への貢献です。企業団の医療機関で得た医療情報は将来の医療に繋がる情報の宝です。蓄積された医療情報の分析は、未来の診断、治療へと繋がり、患者さんに還元することができます。置賜発の病気の診断、治療法開発という夢も実現するかもしれません。　（裏面へ続く）

しかし、日本では電子カルテが病院で違うことから、医療情報の共有は困難です。コロナ騒ぎでこの問題が取り上げられました。日本一と思えるほど医療情報の共有化が進んでいる当地から、医療情報の共有化、標準化を全国に推し進めたいものです。

医療情報は患者さんの大切な情報です。患者さんのプライバシーとセキュリティーを守ることがまずは基本です。これらの基本をしっかり見据え、南陽病院はこれからも皆さんに質の高い医療提供に努めてまいります。



自分の生き方、老い方を考える



地域連携・患者支援室　　副看護師長　髙橋　愛

突然ですが、みなさんは、自分の生き方や老い方を考えたことがありますか？若い方はもちろんのこと、どの年代の方でも、元気なうちはじっくり考える機会は意外に少ないのではないでしょうか。病院に勤めていると、患者様やご家族様から相談を受け、様々な思いに触れながら支援させていただく機会があります。健康に年齢を重ねていくことができれば、それはとても喜ばしいこと。ですが、年を重ねていくと、病気になったり、けがをしたりするリスクが高まりますし、場合によっては、死に直面したり、ということもあります。そうなった時、みなさんはどのような選択をするでしょうか？

病院では、命の選択の場面に立ち会うことがありますが、患者様ご本人の意思を確認することが難しい場合、どのような選択をすればご本人が辛くないのかと、悩まれるご家族と接することもあります。ご本人にとっても、自分の思いを伝えていなかったことによって、望まない選択となってしまうことがあるかもしれません。元気なうちに、ご家族やご自身が信頼できる方と、どのように老いたいか、どのように人生の最期を迎えたいかなどを話し合い、思いを伝えておくことが大事ですね。



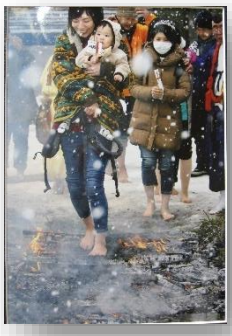
病院ギャラリー　（展示期間：R５.3.1～3.31）

片桐　登さんの絵画作品（一部ご紹介）



「神輿御下り」

竹田 常夫・竹田 多美子さんの写真作品（一部ご紹介）



「笹野観音火渡り（米沢市）」
多美子さん



「銀山温泉（尾花沢市）」
常夫さん

＊ギャラリーは、外来受診でお越しの方に限らず、一般の方にもお楽しみいただけます。

〈病院ギャラリー作品予定（４月）〉　宮内公民館絵画教室作品展　　加藤弘一写真展

おしらせ

広報誌「お元気ですか」は、令和５年５月（第１３３号）から、配布方法が隣組回覧に変更となります。引き続き、さまざまな情報を提供できるよう頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。なお、外来やホームページでも引き続きご覧いただけます。